

第十二回 戦争の記憶

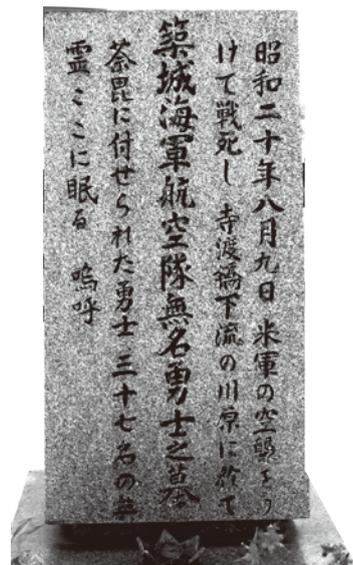
太平洋戦争末期の昭和二十年（一九四五）、広島に原爆が投下された翌日の八月七日、築城基地周辺の施設や民家に米軍艦載機（かんさいき）と爆撃機B24の大規模な空襲が行われ、当時軍関連施設があった広末でも多数の死傷者が出た。

八月九日、戦死者三十七名の遺体が安永から越路、現築上町役場横を通り西高塚へと馬車で運ばれ、寺渡橋のすぐ下の城井川の河原で荼毘に付された。

以下『上田哲二氏回想録より』
当日は雲一つない炎天下、城井川の河原は完全に干上がり河原の小石は真白に変色し、河原全体に「カゲロウ」が立ち昇っていた。

遺体は一体づつ薦（こも）に巻かれていた。頭部から膝までは隠されていたが膝からは露出されていた。作業中に負傷したのであるうゲートルをして地下足袋を履いていた人も多くいた。

当時は火葬するにしても主



のちに地元婦人会が建てた墓碑

燃料の薪が不足で学校等を壊した廃材を使い重油をかけて焼いたため煙が立ちこもり強烈な異臭がこの地域に充満したそうである。火葬中は一体毎に番号を付けて遺体の名前が解るようにして火葬した。火葬後は一体につき少量の骨を拾って帰隊した。遺された骨はそのまま河原は白骨の山と化した。

地元西高塚の住民はこれを放置するのは忍び難く、大きな味噌瓶（みそがめ）を購入して残存骨を全て納めて近所の真光寺にお預かり頂き供養した。

後年地元の墓地に埋葬し、昭和四十二年八月十三日に地元婦人会と地元石材店のご厚情により立派な墓碑が建てられた。以後毎年八月十五日には墓碑に旭日旗をかけ町内戦没者の墓前と共に祭壇を飾り賑やかな盆踊りで慰霊している。

【参考文献】久保静夫「旧海

軍の防空壕（弾薬庫）とその周辺について」

『郷土誌ついき三十五号』

この時の空襲の弾痕は行橋市稲童にある神社石碑やレンガ塀に今でも生々しく残っており、当時の空襲の凄まじさをつかがうことができる。戦争の記憶や遺品、また地元の戦争のつめ跡などお知らせください。記録を取っていきたいと思います。（生涯学習課文化財保護係）



遺体が火葬された寺渡橋の下流

しいだコミュニティ倶楽部からのお知らせ



応援頑張りました！

←6月23日（土）ヤフードーム観戦に行きました！
ソフトバンクVS日ハム
大逆転で、ソフトバンクの勝利でした！

↓しいこみ「おすすめ教室」

肩がこる…ヒザが曲げにくい…腰が痛い…手が上がらない
そんな方にストレッチをおすすめします！
教室に参加して指導のとおりストレッチをすると
自然に身体がほぐれ、全身がすっきりします。
また、ご家庭で続けると、筋肉強化に繋がります。
しいこみ「すっきりストレッチ教室」の参加をお待ちしています。

【ストレッチ教室：第2・4水曜日13:30～14:30
場所：武道館／1回100円】



注) しいこみストレッチ教室は、しいこみ会員対象の教室です。

しいこみ会員入会方法

年会費	個人小学生	¥2,000	保険	中学生以下	¥800
	個人中学生以上	¥3,000		高校生～64歳	¥1,850
	家族	¥6,000	65歳以上	¥1,850	
				¥1,000	

※保険には必ず加入して頂きます。

申込・問い合わせ：しいだコミュニティ倶楽部事務局
榎田体育館 電話56-0075